

---

# 離れない愛

Nazu

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

離れない愛

### 【Nコード】

N1540P

### 【作者名】

N a z u

### 【あらすじ】

俺と君の出会い

俺が奈良に行かなかつたら

電車で寝なければ出会ってなかったのだろうか？

俺はそうは思わないよ

奈良に行かなくても電車で寝なくても

違う形で出会っていたと思うよ…。

## 離れられへんねん

もし俺が

奈良に行かなかつたら

電車で寝なかつたら

もし電車で隣じゃなかつたら

俺と君は出会わなかつたのかな？

俺はそう思わないよ

電車で寝なかつたり隣じゃなかつたり

奈良に行かなくても

また違う形で君とは出会ったと思うよ。

でも運命は俺と君を引き裂こうとしているのか？

そんなのが運命ならば

俺は何度でもその運命に逆らってやる

君もそう思ってくれてるかな？

そうだったらとても嬉しいよ

この物語は男の子視点です

初めて小説を書くので

下手くそですが

どうか読んでください。

アドバイスをくれたらありがたいです。

## 出会い

中三の冬

そう、ちょうど受験や入試の日

俺は、朝から姉に頼まれて電車で大阪から奈良に行き、おばあちゃんに会う

おばあちゃんは75歳で

とても元気なおばあちゃん

元気って言っても、明るいだけで

おばあちゃんの大切にしている畑を育てる元気はなくて、俺はたまに手伝いに行く。

「ばあちゃん来たよー」

「？なっちゃんかい？」

「だからなっちゃんって呼ぶなって」

「で？ばあちゃん今日は何手伝えばいいんだ？」

「今日は残っている野菜の収穫をしゃうと思つてなまあ少ないんだが」

おばあちゃんの畑はともでかくて、少ないと言つても畑全体を見るわけで

もう終わるころには夕方までかかるだろう

「おばあちゃんもう終わったし帰るよー」

「もうちょっとゆっくりしていけばいいのに」

「みたいテレビがあるんだ」

「そうかいじゃあまた来ておくれよ」

俺はばあちゃんが見えなくなるまで

手を振りつづけた

夕焼けが眩しくて

ばあちゃんがいつもよりも綺麗に見えた

俺は電車に乗り

疲れたのでいつのまにか

寝ていた。

ガタンゴトンガタンゴトン

「あの…えつと…」

誰かが俺を揺さぶる

「ん？誰だよ」

「あの…肩…」

「ん？…あつごめん」

俺は

女の子の肩に頭をおいて  
寝ていた。

「まもなく 駅」

あつ

俺の下りる駅だ…

「あの…本当にごめんな…じゃっ」

俺は女の子に謝って  
電車からおりた

『あの子可愛かったな〜何処の学校の子だろう？』

俺はあの女の子を思い浮かべながら  
家に帰った

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1540p/>

---

離れない愛

2010年11月26日22時19分発行